慶應義塾高等学校

Keio Senior High School | SCHOOL GUIDE

未来の先導者がここで育つ

For the Leaders of the Future

慶應義塾の理念

PHILOSOPHY

独立自尊

慶應義塾は単に一所の学塾として自ら甘んずるを得ず、その目的は、わが日本国中における気品の泉源、智徳の模範たらんことを期し、これを実際にしては居家、処世、立国の本旨を明らかにして、これを口にいうのみにあらず、躬行実践、もって全社会の先導者たらんことを欲するものなり。

福澤 諭吉

※居家 ＝ 家庭をおさめてゆくこと。
※処世 ＝ 世間で暮らしを立ててゆくこと。
※立国 ＝ 国の独立をたもつこと。
※本旨 ＝ 本来の趣旨。
※躬行 ＝ 口で言う通りを、みずから実際に行うこと。

Contents

02 慶應義塾の理念
03 校長挨拶／沿革と教育目標
05 ［特集］グローバルリーダーを育むために
07 ［特集］卒業生インタビュー
09 カリキュラム／在校生インタビュー
11 国際交流
12 塾高での一日／制服紹介
13 年間行事
15 クラブ活動
17 施設紹介

校長挨拶
MESSAGE

未来の自分のために
―正統・異端・協育―

慶應義塾高等学校（塾高）はいま、「日吉協育モデル／正統と異端の協育」と名付けた独自の教育を展開しています。「正統」は高校生として当然に身に付けるべき知性・体力・モラル、「異端」はそこから磨き高められる傑出した個性や能力を意味します。大地に立つ一本の大きな樹をイメージしてください。「正統」はその太い幹と地中深く広がる根、「異端」はそこに咲く花であり、果実です。最初は小さな若木でも、やがてはどんな風雨にも負けない大樹になるでしょう。

私たちは、ここで学ぶ生徒の柔らかな知性や感性にたくさんの種を蒔きたいと考えています。そのために多種多様な「協育プログラム」を用意しています。「協育」、それは大学や同窓会、企業など、多くの人たちと協力しながら未来のリーダーを育てる試みです。大学のキャンパスにある強みを最大限に活かしています。

ここに一枚の写真があります。万延元（1860）年、福澤諭吉は幕府の遣米使節の一員としてサンフランシスコに行きました。咸臨丸という小さな蒸気船で太平洋を渡る冒険でした。ふらりと立ち寄った写真屋で、店の娘さんと撮ったものです。時は幕末、日本は開国と攘夷の間で揺れています。彼の腰には刀がありません。武士の魂である刀をはずし、異国の女性と写真を撮る、それは驚くべき行為だったはずです。このとき彼は25歳、まだ何者でもありません。しかしここには、のちに「福澤諭吉」になる芽吹きがはっきりと見て取れます。彼は日本の近代化をリードする思想家・教育者になっていくのです。

福澤がアメリカの旅で学んだのは、近代社会を成り立たせる仕組みや考え方でした。それは見たこともない世界でした。写真の中の二人は対等な関係で並んでいます。独立した個人によって形成される近代市民社会の本質がここにあります。刀をはずすのは勇気がいることです。しかしそのことによって初めて、心に自由が生まれます。腕を組んでじっと見つめるまなざしの先には、どんな未来の風景が映っていたのでしょうか。

塾高は大きな学校です。自由でおおらかな気風の中で、自分自身の可能性にじっくりと向き合うことができます。

刺激に満ちた学びを通して、次々に出会う新しい世界に好奇心を広げ、未来の自分を夢見てください。福澤諭吉がそうであったように、若木はやがて大樹になり、大輪の花を咲かせます。大事なことは、どんな風雨にも耐える独立した一本の強い木に育つこと、古い慣習にとらわれない自由な心を持つこと、それが私たちの教育の目的であり、理想です。

校長　阿久澤 武史

沿革と教育目標
HISTORY AND MISSION

1858

慶應義塾発祥の地記念碑

1904

大学部校舎

1934

当時の日吉キャンパス

日吉キャンパス第一校舎

1949

日吉校舎返還式

慶應義塾高等学校は慶應義塾第一高等学校、第二高等学校の名称で1948（昭和23）年に設立されました。翌年に両校を統合して慶應義塾高等学校と改称し、その秋、米軍に接収されていた日吉の旧大学予科校舎が返還された際に移転し、現在に至っています。生徒総数約2,200名、各学年18学級からなる男子校で、人材の豊富さと個性の多様性が特徴です。福澤精神に則り、独立自尊の気風にとみ、自主性と気品を重んじ、将来「全社会の先導者」となる人材の育成を教育の目的としています。

2008

慶應義塾創立150年

1858年	福澤諭吉、蘭学塾を創始。
1868年	慶應義塾と命名。
1898年5月	一貫教育制度への学制改革。 大学科（後に大学部と改称、5年）・普通学科 （後に普通部と改称、5年）・幼稚舎（6年）の体制へ。
1934年5月	大学予科（医学部を除く新1年生）が日吉に移転し、 第1校舎にて授業を開始。
1945年	アメリカ軍により日吉構内の施設が接収される。
1948年	「慶應義塾第一高等学校・第二高等学校」が発足。
	前年に公布された学校教育法に基づき、 新制高等学校として 三ノ橋校舎にて授業を開始。 「慶應義塾第一高等学校・第二高等学校」が発足。
1949年	「第一高等学校・第二高等学校」の名称を廃止し、 「慶應義塾高等学校」となる。
	同時に三田山上を本校舎、三ノ橋校舎を分教場とした。 アメリカ軍より日吉返還される。 アメリカ軍より日吉返還された日吉へ移転。授業を開始。
1950年11月	自治会・文連・体連の共催で第1回日吉祭を開催。
1951年3月	自治会がすべての任務を終了し、新たに生徒会として発足。
1951年4月	生徒会が第1回学園評議会を開催。
1952年5月	日吉の陸上競技場で第1回陸上運動会を開催。
1952年9月	3年生は北海道、2年生は裏磐梯、1年生は草津の各方面へ。 全校で学校行事としての修学旅行に出発。
1958年	完成した日吉記念館で慶應義塾創立100年記念式典開催。 日吉祭実行委員会主催で初の関東高校学生招待会議を開催。
1963年	日吉会堂が完成。名称は教職員・生徒からの公募で決定。
1970年5月	特別教育棟（現A棟）が完成。
1984年3月	新棟（現B棟）・地下体育館完成。
1999年2月	従来各学年で行われていた修学旅行をやめ、 選択旅行形式に改められた。
1999年5月	1年生の修学旅行が親睦旅行へと改められた。
2003年1月	新たに推薦入学試験（募集人員約40名）が 制度化され実施された。
2005年4月	3年生による卒業研究論文の提出が必修化された。
2008年	慶應義塾創立150年記念式典を開催。 慶應義塾高等学校創立60年記念式典を開催。
2009年4月	南側グラウンド全面人工芝化。
2009年11月	蝮谷体育館竣工。
2010年4月	多目的コート供用開始。
2018年	高等学校開設70年。日吉協育棟完成。

校長挨拶／沿革と教育目標

［特 集］

グローバルリーダーを育むために

日吉協育モデル －正統と異端の協育－

2018年の開設70年を機に、「日吉協育モデル―正統と異端の協育―」と名付けた新しい教育を実践しています。その目的は、生徒が将来のグローバルリーダーにふさわしい人間に成長することです。「日吉協育モデル」にもとづき、多種多様なプログラムを設置しています。一貫教育の強みを生かして慶應義塾大学の学部・大学院・研究センターや、慶應義塾以外の法人・団体、そして卒業生などの協力のもと、生徒が自らの関心や知的好奇心を広げ、深める機会を提供するものです。選択科目や卒業研究、さらには放課後や長期休業期間に課外講座という形で用意される多くのプログラムの中から、生徒自身が自主的に選び、それに参加することで「協育」の実践をはかります。

また、グローバルに活躍できるリーダーを育成するためには、他国の同世代の人たちとの交流が欠かせません。国際交流の拡大や多文化理解の深化、国際感覚の涵養と修得をめざすものとして、海外の提携校との短期交換留学や中期派遣留学プログラム、さらには海外からの留学生との交流をはかるプログラムも実施しています。

主なプログラム（2023年度実施）

同窓会との連携による講座

将来展望講座

2011年から毎年12月に開催されている卒業生による講演会です。2023年度は、三毛兼承氏（株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ取締役執行役会長）による「バンカーから塾高生へのメッセージ―自分の未来を創るためのヒント―」が行われました。毎回多くの生徒から真剣な質問が飛び出し、講演者からもまた熱いメッセージが送られる講座です。

法科大学院との連携による講座

法律学

社会科設置の３年選択科目です。2023年度は裁判員制度について理解するため、弁護士と裁判員経験者による授業を行い、現場での経験を語ってもらいました。18･19歳も新たに対象となったため高校生も選ばれる可能性のある制度について、その現状と課題を議論します。また、法科大学院の専門家による法曹界の仕事の紹介や裁判傍聴も行われるなど、将来の進路を考える上でも役に立つ内容となっています。

同窓会との連携によるプログラム

インターンシッププログラム

2023年度から始まった新しい企画です。夏休みに卒業生が経営に関わっている法人（2023年度は会社４、NPO団体１）に３～５日程度インターンとして受け入れていただき、高校生の段階で一足早く仕事の現場を体験できます。他の高校にはない魅力ある独自プログラムです。

高等学校主催

学校講演会「平和との対話」

毎年９月に全学年を対象として開催されます。2023年度は「ウクライナ和平をどう考えるか―不当な平和を繰り返さないために―」と題して、廣瀬陽子氏（総合政策学部教授）に講演していただきました。生徒の関心も高い時事的なテーマであり、歴史的な経緯や地理的な特徴だけでなく、近年登場した「ハイブリッド戦争」について最新の情報をふまえた解説がありました。講演後の質問では、生徒が自らの見解を先生に評価してもらう一幕もあり、塾高生の問題意識の高さがうかがえました。

生徒によるプログラム

「塾高にもっとアートを！」

生徒が自ら企画して昼休みや放課後に行われるプログラムです。2023年度は、沖縄の三線ライブ、日本舞踊、ピアノコンサートが行われました。本校には、クラブ活動とは別に芸術活動を高いレベルで行っている生徒がいます。ふだんは目にすることがない塾高生の「アート」に触れる良い機会になっています。

大正製薬との連携による講座

マーケティングの実践

３年選択必修科目「卒業研究」の一講座として実施されています。大正製薬のロングセラー商品「リポビタンD」のボトルデザインを生徒が考案します。採用されたデザインは日吉祭や連合三田会で来場者に無料提供され、同時にアンケート調査を実施し、その結果をまとめ、マーケティングの卒業論文として完成させます。

From graduates

求めよ、さらば開かれん

吉村 太郎 さん（2017年3月卒業／2021年 経済学部卒業）
東京大学総合博物館特別研究員（2024年9月～英国ケンブリッジ大学に留学予定）

私が没頭してきた博物学は、自然の中に躍動する命の姿を人が描いていく学問です。それは、単なる自然科学の一分野ではなく、人の感性を解き放つ場としてのあらゆる学問、芸術、文学、身体表現への広がりをもっています。こうした未知の自然と人とのつながりを高校生が主体的に追究するには、学校の内外にある何かを自ら工夫して体得する姿勢が求められるでしょう。

福井県出身の私は、幼少期から熱中してきた空手を高校でも競技者として続けたいと考え、推薦入試を受験しました。入学後は空手部で週6日の稽古に励み、休みの日は茶道部や文芸部で穏やかに友人たちと過ごしました。最後の年には、生徒会副会長として学校の課題にも向き合う日々をおくりました。そして、今日まで一貫して注力し、塾高の友人、先輩、先生方の力を最も借りてきたのは、昔から好きだった貝類の研究でした。3年間、地学の先生に協力を仰ぎ、ときには数学の先生に統計解析を、日吉キャンパスの大学の先生にロシア語の文献の解読を、そして理工学部の研究室あるいは学外の専門家にも装置を使った実験を依頼し、研究を進めることができました。

のどかな学風が息づく第一校舎は、尊敬する同窓生との出会いも提供してくれました。塾高には、こちらが求めて門をたたけば、必ず応えてくれる人たちがいます。彼らのおかげで、田舎からひとり上京した15歳の私は決して孤独ではありませんでした。この学校は、志を高く持ち、分野を超えて挑戦する若者を懐深く支えてくれることを、卒業生の一人として保証します。

高校時代の吉村さん。新種の貝化石発見の論文を手に。

新しい挑戦を支えてくれる仲間と塾高の教え

小林 正忠 さん（1990年3月卒業／1994年 総合政策学部卒業）
楽天グループ株式会社 チーフウェルビーイングオフィサー

自分らしく生きることが大切な今、与えられることにただ向き合うのではなく、自ら考えて歩む経験が重要です。塾高にはその「時間」があり、対話をする「仲間」がいます。さらには、慶應義塾の歴史と文化を紡いできた「教え」と層の厚い我々「OB」達がいます。

1997年に楽天を起業した際、営業活動も困難で誰からも振り向いてもらえない中、慶應の先輩達が様々な場面で助け舟を出してくれました。当時は「インターネットでモノを買う時代」を信じてくれる人も少なく、手を差し伸べてくれる同期や先輩達の存在は心強かったです。

このような新しいことに挑戦していく気風もまた、塾高をはじめとした慶應で培われているものです。無謀と思われる挑戦、誰も知らない、誰も成功していない、みんなが無理だと思っている、そんな挑戦を乗り越えられた原点が、「自我作古」（われよりいにしえをなす）という、自分が信じれば歴史は自らが作れるという慶應に根付いた考え方でした。

大学生のように長い夏休みや春休みがある特殊な環境である塾高では、大人達によって敷かれたレールの上をただ歩くのではなく、自分自身がやりたいことを実現できる時間やサポートがあります。通常の授業以外にも我々OBが先生方と開発した協育プログラムには、夏季休暇中のOB企業でのインターンシッププログラムやオンラインコーチングプログラムもあります。

一度しかない人生。自分らしく生きるためにも、15歳の春の大切なその一歩を是非とも塾高で踏み出してみてください。どこかで出逢えることを期待しています。

楽天創業時の小林さん（写真右から2人目）。

[特集]卒業生インタビュー

カリキュラム
CURRICULUM

文系・理系などのコース設定はありません。3年次には自らの興味・関心や志望進路に合わせて選択科目を履修し、探求を深めることができます。

1年		2年		3年	
科目	単位	科目	単位	科目	単位
現代の国語	2	古典探究	4	論理国語	4
言語文化	2	歴史総合	3	数学B	2
地理総合	3	数学Ⅱ	4	地学基礎	2
公共	3	物理基礎	3	体育	2
数学Ⅰ	3	化学基礎	3	英語コミュニケーションⅢ	4
数学A	2	体育	3	選択科目	10~14
生物基礎	3	音楽Ⅱ／美術Ⅱ	2	卒業研究	2
体育	2	英語コミュニケーションⅡ	4	将来開発※2	1
保健	2	第2外国語※1	2	HR	1
音楽Ⅰ／美術Ⅰ	2	家庭基礎	2		
英語コミュニケーションⅠ	4	HR	1		
情報Ⅰ	2				
HR	1				
合計	31	合計	31	合計	28~32

※1　ドイツ語Ⅰ、フランス語Ⅰ、中国語Ⅰのいずれか1科目。
※2　入学から卒業までに30ポイント以上の取得が必要。

授業時間
TIME TABLE

授業は6時限までですが、木曜日のみ7時限にHRがあります。なお、朝や帰りのHRはありません。

1時限	8:20～ 9:10
2時限	9:20～10:10
3時限	10:30～11:20
4時限	11:30～12:20
昼休み	
5時限	13:00～13:50
6時限	14:00～14:50
7時限	15:00～15:50

授業紹介
CLASSES

高大一貫講座

大学での講義を先取りすることで学部選択に役立ちます

前期は慶應義塾大学経済学部の教員から経済学を学び、後期は大学校舎で大学生とともに商学部の講義を受けます。一貫教育の強みを生かし、高校時代から一足早く大学教員の講義を学ぶことができます。各学部の雰囲気も感じられ、学部選択の良い材料になります。商学部進学時には講義の取得単位として認定されます。

第2外国語

異文化理解とコミュニケーション能力を養います

IT化やグローバリゼーションによって世界の人々と簡単につながり、国境を越えた活躍が可能な時代に、英語以外の言語を学ぶことは将来「社会の先導者」となることを目指す生徒にとって必須となりつつあります。ドイツ語、フランス語、中国語のいずれか1つを学ぶことで、英語圏以外の多様な文化や価値観を学ぶことができます。

卒業研究

アカデミックライティングの基礎を学び、学習から学問の世界へ

教員が提示する約50講座の中から、知的関心や進路に合わせて講座を選ぶことができます。講座によっては専門家を招聘したり、フィールドワークを実施するものもあります。研究を進め、発表を行い、最終的には論文形式を身に付けた上で、卒業論文を執筆し完成させます。特に優れた論文には優秀論文賞を授与しています。

From students

刺激的な留学体験が学ぶ意欲に火をつけた

林田 航 さん（内部進学）

自由な校風と様々な能力に秀でた仲間に出会える環境に惹かれ、塾高を選びました。3年間で最も印象深いのは、イギリス・ウィンチェスターへの留学です。欧米やアジア、アフリカなど世界中から集まる優秀な生徒たちとの競争を通じて、自分の「基準」が大きく押し上げられました。学問に対する皆の強い探究心に刺激され、私も夢中で学問を追究したいと思うようになったのです。彼らと青春の一時を過ごし、絆を深めた経験は、これからの私の人生に多大なる影響をもたらしてくれるに違いありません。異文化の中で培われた度胸やチャレンジ精神も、自分の可能性を広げてくれると確信しています。

歌舞伎のもつ魅力を世界に広めるために

深澤 瑛太 さん（推薦入試）

私には、世界各地を巡って歌舞伎の魅力を発信したいという夢があります。塾高への入学を決めたのは、福澤諭吉先生が掲げる「自我作古」の精神に、誰も成し得ないことに挑戦しようとする自分と通じるものを感じたからです。私は以前、学内で歌舞伎を披露する機会をいただきました。自らの踊りで歌舞伎の魅力を伝え、感動を与えられた経験から、何かを成し遂げようとする努力は最高の結果をもたらすことを学びました。世界中に歌舞伎を広めるという大きな目標に向け、そのために必要な知識と能力をこの3年間で得たいと思っています。

固い信頼で結ばれた仲間は一生の財産

稲井 優太 さん（一般入試）

多様な校内の活動、仲間との切磋琢磨を通じて、充実した高校生活を送れると思い入学しました。現在私は生徒会の新世紀制作委員会、ディベート部、そのほか複数のクラブに所属しています。中でも私を大きく成長させてくれたのは、ディベート部での活動です。部員それぞれの気概が影響し合う中で自己成長が促され、互いを頼りにし合える関係を築けました。塾高は、生徒の自己実現や挑戦を応援してくれる校風です。志の高い友人と同じ目標に向かって全力で打ち込める学校はここを置いて他にありません。塾高で磨いた人間性、周囲との協調性は、社会に出てからも私を支えてくれるはずです。

国際交流
INTERNATIONAL EXCHANGE

長期から短期まで英米伝統校への留学制度

本校には、「一貫教育校派遣留学制度（長期派遣留学）」、「中期派遣留学プログラム（ターム留学）」、「短期交換留学プログラム」の３種類の留学制度があります。長期派遣留学は、慶應全体の制度で、一貫教育校（高校段階）から選抜された生徒を英国や米国の有名ボーディングスクール（寄宿制学校）に約１年間派遣しています。高等学校への学費を納付していただく代わりに留学先の学費（授業料・寮費を含む）が給付されます。また、本校独自の制度として中期派遣留学があります。本制度では１・２年次３月から最長６か月間、留学することができます。長期派遣留学と中期派遣留学は原則としてそのまま進級することができます。短期留学は、米国にある提携校と約２週間の交換留学を長期休業中に実施しており、ホームステイを通して、言語だけでなく現地の文化も学ぶことができます。なお、中期派遣留学と短期交換留学は協育基金による「グローバルリーダー奨学金」の支給対象となります。

短期交換留学プログラム

現在、ザ・ボールズ・スクール（The Bolles School、米国）と交換留学を行っています。春休み中に10日～３週間程度、現地校で過ごし、春から秋にかけて、先方から日本に留学生を迎えています。

中期派遣留学プログラム（ターム留学）

クライスト・カレッジ・ブレコン（Christ College Brecon、英国ウェールズ）に派遣しています。同校は1541年にヘンリー８世によって設立された歴史あるパブリックスクールです。2025年度からは、同校に約10か月間留学する本校独自の長期派遣留学制度を開始します。

一貫教育校派遣留学制度（長期派遣留学）

最近では、Deerfield Academy（米国）、Winchester College（英国）に派遣しています。Deerfield Academyは、1797年に設立された米国屈指の名門校で、2023年度に１名派遣されました。Winchester Collegeは、1382年に設立されたパブリックスクール最古の歴史をもつ伝統校で、2023・2024年度に各１名派遣されています（写真は同校）。

塾高での一日
A DAY AT KEIO SENIOR HIGH SCHOOL

広大な日吉キャンパスの中にある恵まれた環境のため、大勢の生徒がいますが狭く感じることはほとんどありません。
友人とワイワイにぎやかに過ごすことも、ゆったりと静かに過ごすこともできます。

AM

8:00–
登校
日吉駅からイチョウ並木を上がって徒歩５分。

8:20–12:20
1-4時限
２時限と３時限の間に20分休みがあります。

12:20–13:00
昼休み
昼食は弁当派と食堂派に分かれます。

PM

13:00–14:50（15:50）
5-6（7）時限
木曜日のみ
７時限にHRがあります。

14:50–18:00（17:00）
放課後
4-10月は18:00まで、
11-3月は17:00まで活動できます。

18:00（17:00）
帰宅
クラブに入っている生徒は様々な活動場所から帰ります。

制服紹介
SCHOOL UNIFORM

制服は詰襟の黒の学生服で、ボタンは指定されています。夏季略装の期間は、上着なしでワイシャツ、セーター（ともにペンマークの縫い付けが必要）も可としています。帽子は制帽のみ認めています。

summer

winter

年間行事
ACADEMIC CALENDAR

主体的に取り組み、生徒同士が切磋琢磨

本校では3学期制を取り入れています。学校内外で行われる学校行事は、授業や部活動とは異なる体験ができる貴重な機会です。生徒が主体的に取り組み、生徒同士が切磋琢磨することで能力の可能性を広げます。大規模校の本校ならではの行事としては、国内外の多様な特徴を持つコースが用意された選択旅行、陸上競技場をすべて使った陸上運動会、多くの来場者を迎える日吉祭などがあります。

入学式 | 4月

春の息吹あふれる日吉キャンパスで、3年間の塾高生活が始まります。

TOPICS

選択旅行 | 夏期・春期

国内外の豊富な選択肢を用意した
選べる「修学旅行」

夏休み・春休みに実施され、卒業までにいずれかのコースに1回以上参加することになります。気の合う仲間と校外で過ごし様々な活動を通して多くの学びがあることでしょう。

【実施コース例】
台湾、中国（北京）、屋久島、四国、沖縄本島、東北・三陸、北海道（道東）、スキー／スノボー（赤倉）、雪の北陸・飛騨、奈良・京都、Welcome to British Hills（福島）、八重山諸島、スロートラベル山陰・山陽、米国（Los Angeles）、スポーツキャンプ（千葉）、てつたび（鬼怒川）、横須賀・成田空港

4 April	5 May	6 June	7 July	8 August	9 September	10 October	11 November	12 December	1 January	2 February	3 March
・入学式 ・新入生歓迎行事	・1学期中間試験 ・早慶戦（東京六大学野球） ・BLS教育 ・校内球技大会	・第1回保護者会	・1学期期末試験 ・選択旅行（夏期）	・選択旅行（夏期） ・大学模擬講義・模擬ゼミ	・学校講演会	・陸上運動会 ・学部説明会 ・早慶戦（東京六大学野球） ・日吉祭	・2学期期末試験	・理工学部見学会 ・第2回保護者会	・福澤先生誕生記念日 ・3年生 3学期期末試験 ・入学試験（推薦）	・福澤先生ご命日 ・入学試験（一般・帰国生） ・1、2年生 3学期期末試験	・選択旅行（春期） ・卒業式 ・新入生ガイダンス

校内球技大会 | 5月

サッカー、ソフトボール、バレーボール、バスケットボール、卓球の5種目で学年ごとにクラス対抗戦を熱く繰り広げます。生徒会を中心に大会運営を生徒が担うのも特色です。クラスの親睦が一気に深まる行事です。

陸上運動会 | 10月

日吉キャンパスが誇る陸上競技場で開催されます。各学年のクラス対抗で様々な種目で競い合い、大いに盛り上がります。そのほか、クラブ対抗リレーは体連・文連別に行われ、多くのクラブがその競技の装いで走る名物競技です。

日吉祭 | 10月

生徒主体で企画・運営する文化祭です。2日間にわたり文化系クラブの活動発表や有志団体の企画を中心に開催します。一般にも公開され、受験生を含む多くの来場者を迎えます。

卒業式 | 3月

3年間の様々な経験を糧に、新たな一歩を踏み出します。

クラブ活動

クラブ活動
CLUB ACTIVITIES

体育系、文化系合わせて約80のクラブが活動中

本校のクラブは、体育団体連盟（体連）・文化団体連盟（文連）併せて80団体あります。体連では野球部、バレーボール部など全国レベルの実力を有するクラブが数多く活躍しています。また、高校としては珍しい、航空部、自動車部、馬術部などもあります。文連では、音楽系クラブの定期演奏会はレベルが高いことで定評があり、また、近年ではディベート部、棋道部が大会で良い成績を収めています。秋の日吉祭では一般向けに演奏会や展示を行います。体連・文連各クラブは、大学の各クラブと施設や指導面で連携しながら充実した活動を行っています。

体育団体連盟（体連）

アメリカンフットボール部
バドミントン部
馬術部
バレーボール部
バスケットボール部
ボクシング部
フェンシング部
ゴルフ部
ハンドボール部
ホッケー部
自動車部
柔道部
重量挙部
空手部
剣道部
器械体操部（器械体操）
器械体操部（トランポリン）
航空部
競走部
弓術部
ソフトテニス部
軟式野球部
應援指導部
レスリング部
サイクリング部
山岳部
ソッカー部（サッカー）
水泳部（水球）
水泳部（競泳）
水泳部（葉山）
水泳部（飛込）
スケート部（スピード）
スケート部（ホッケー）
スケート部（フィギュア）
スキー部
相撲部
蹴球部（ラグビー）
卓球部
端艇部（ボート）
庭球部
野球部
ヨット部
合氣道部
射撃部
洋弓部（アーチェリー）
拳法部
ラクロス部
少林寺拳法部
バレーボール部B
バスケットボール部B

文化団体連盟（文連）

美術部
仏教青年会
文芸部
地学研究会
電子工学研究会
E.S.S.（英語会）
演劇部
フォトフレンズ
福澤研究会
楽友会
ギターアンサンブル
映画部
放送研究会
棋道部
化学研究会
奇術部
マンドリンクラブ
音楽鑑賞会
生物学研究会
書道部
数学研究会
鉄道研究会
ワグネル・ソサイエティー・オーケストラ
漫画研究会
情報科学研究会
ライブラリークラブ
吹奏楽部
クイズ研究会
茶道部
ディベート部

施設紹介
FACILITIES

高等学校の施設は、すべて慶應義塾大学日吉キャンパス内にあります。第一校舎は1934年に竣工した歴史的建造物で、各学年18クラスのHR教室が各階に配置されています。日吉協育棟は2018年に完成した新しい建物で、ホール、図書室、トレーニングルームなどが配置されています。また、南側グラウンドや体育館など体育施設も充実した環境で、生徒たちは日々の活動に励んでいます。

1 第一校舎

各階に各学年A～R組18クラスのHR教室が配置され、教室にはプロジェクターとスクリーンが完備されています。各階3カ所にウォーターサーバーが設置され、冷水をボトルに補給できます。他にLL教室や事務室、教員室などがあります。

2 イチョウ並木

東京近郊で指折りの名所です。300メートル続く見事な並木道は、新緑から黄葉までキャンパスに潤いを与えてくれます。生徒は登下校で毎日この並木道を往来します。

3 日吉台野球場

野球部が活動しています。

4 特別教室A棟

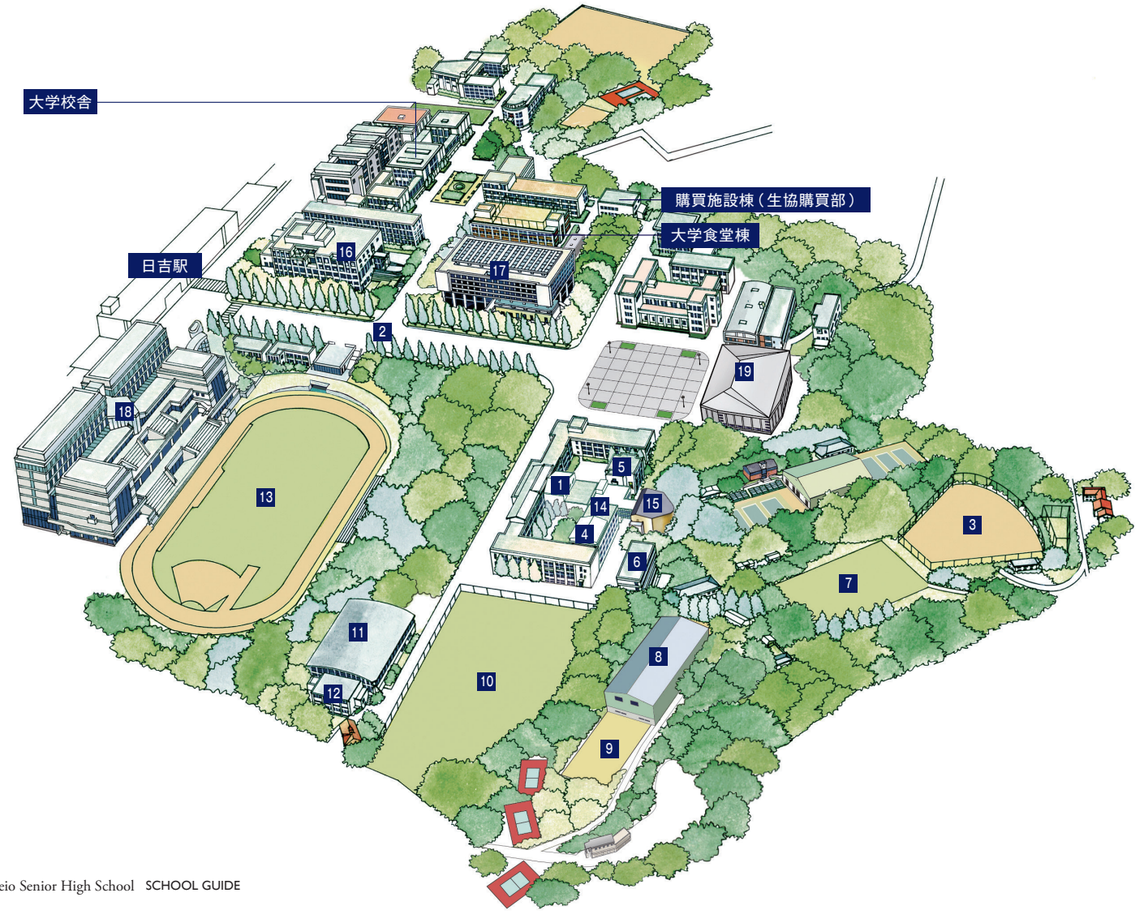
理科室（生物、化学、物理、地学）、音楽室、家庭科室、コンピュータ教室などがあります。

5 特別教室B棟

地下体育館、美術室（鍛金、木彫、絵画、陶芸）、会議室、コンピュータ教室などがあります。

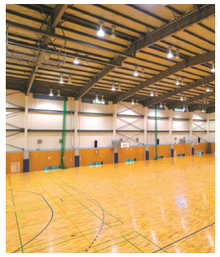
6 食堂棟

グリーンハウス食堂、自動販売機があります。



7 アメリカンフットボール場

アメリカンフットボール部が活動しています。



8 蝮谷体育館

体育の授業で使うほか、ハンドボール部、器械体操部などが活動しています。

9 蝮谷多目的コート

校内球技大会や体育の授業で使うほか、バレーボール部Bなどが活動しています。

10 南側グラウンド

人工芝のグラウンドで、体育のほか、軟式野球部、ハンドボール部、蹴球部が活動しています。

11 日吉会堂

講堂兼体育館。入学式・卒業式や保護者会、体育、クラブ活動などで使います。

12 柔道場

2年生の柔道の授業で使うほか、柔道部、合氣道部が活動しています。

13 陸上競技場

学校行事の校内球技大会や陸上運動会で使うほか、競走部が活動しています。

14 プラネタリウム

特別教室A棟3階にあり、学校説明会や日吉祭で見学が可能です。

15 日吉協育ホール

学校講演会や協育プログラム、音楽系クラブの演奏会などで使います。

15 日吉協育棟

交流館と創造館の2つの建物で構成されています。特に交流館は、創造館と第一校舎およびA棟・B棟をつなぐハブの役割を果たしています。

15 図書室

書籍約13万冊、雑誌約100誌、新聞11紙を所蔵しています。
パソコンが置かれたスペースからは蝮谷が一望できます。

15 トレーニングルーム

平日のみならず土日祝日もトレーナーが常駐し、メニューの相談やトレーニングの指導にあたっています。

慶應義塾大学 日吉キャンパス

16 日吉メディアセンター

41万冊を誇る豊富な蔵書で利用者の探求心を満たします。演奏会などイベントも開かれます。高校生は高校図書室にない資料をメディアセンターで探すことができます。

17 来往舎

大学・大学院を横断する研究棟で、研究発表やイベントが行われることもある、外部との交流拠点です。

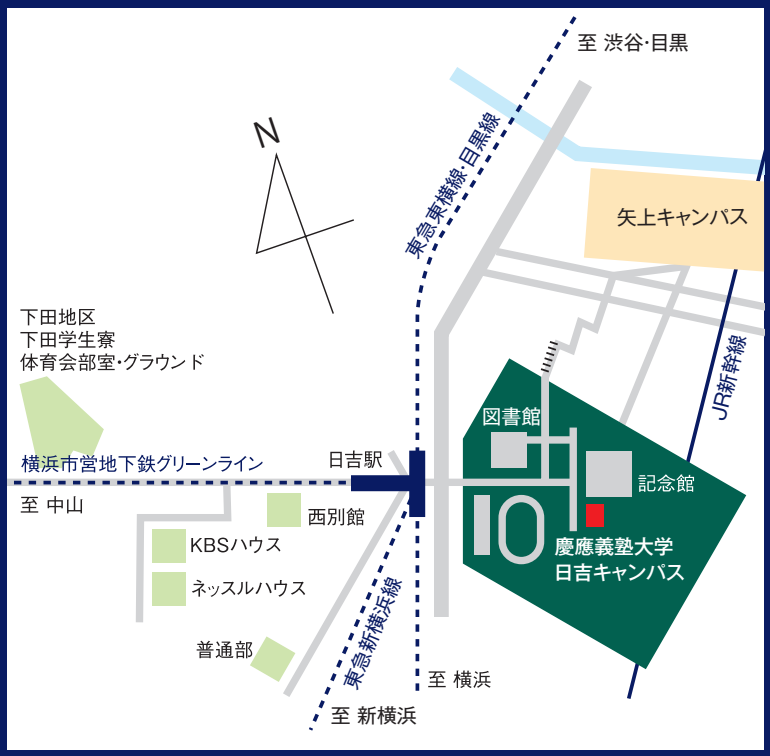
18 協生館

コンサートホール、プール、大学院施設、研修宿泊施設のほか、スポーツクラブ、カフェ、薬局、コンビニ、保育園などが入る、地域に開かれた複合施設です。高校生も日吉祭で音楽系クラブがホールを利用したり、水泳部がプールを利用したりしています。

19 日吉記念館

10,000人収容の大ホール。大学の入学式・卒業式、連合三田会大会などの会場になります。

施設紹介



Access

東急東横線・東急目黒線・東急新横浜線・横浜市営地下鉄グリーンライン
「日吉」駅下車（徒歩５分）

※東急東横線の特急とＦライナー特急は日吉駅に停まりません。
※渋谷～日吉：25分（急行約20分）
※横浜～日吉：20分（急行約15分）
※新横浜～日吉：6分

慶應義塾高等学校

〒223-8524　神奈川県横浜市港北区日吉4-1-2
TEL. 045-566-1381（代表）

https://www.hs.keio.ac.jp/